



ぐんまの消防



表紙写真 利根沼田広域消防本部訓練風景

地域住民の安心・安全のために



群馬県のマスコット
「ぐんまちゃん」
許諾第26-191436

第**36**号
平成29年度発行

団長の熱き思い

消防団活動は郷土愛活動



太田市消防団 団長 宮田 次男

太田市は、平成十七年三月二十八日に太田市、尾島町、新田町、藪塚本町の三市三町が合併し、新市として誕生しました。それに伴い我々消防団員も太田市消防団として新たに発足しました。管内地勢は南に利根川、北に渡良瀬川という二つの水の恵みと、金山八王子丘陵の豊かな緑を有しています。

平成二十九年十月一日現在、太田市消防団は六三四人、一本部六方面隊、十六個分団で構成され、災害などから市民を守り、安全安心に暮らせるよう活動しております。

さて、消防団の活動もいろいろとありますが、災害から住民を守ることは重要な活動の一つです。災害と言えば、地震、雷、火事、台風など、昔から怖いものと言えはすぐこのような災害が思い浮かんできます。しかし、近年の災害や事故は複雑化・大規模化の傾向が強くなってきたと感じます。木造密集地の大火や山林火災だけでなく、集中豪雨や土砂崩れなどの自然災害も毎年のように頻発し、消防団活動はますます拡大多様化しています。このように地域防災の中核

として消防団の役割が一層必要とされる今日、「私達の街は私達を守る」という郷土愛と義勇の心を持つて消防団活動をしていくことが、災害を防ぐ防災、災害時の被害を減らす減災に繋がると確信しております。いついかなる時に、大きな災害が起きるとも限りませんから、そのことを想定し備えるために消防団員も団員の確保、知識や技術の向上に努めなければなりません。特に消防団員の確保は今や全国的な課題であると考えます。自助、共助、公助の考えがありますが、消防団活動はこの三つすべてを兼ね備えており、団員として培った技術で自身や家族を守り、近隣住民や地域コミュニティとの連携で絆を結び、地方自治体より貸与されている消防団の装備を生かして災害に立ち向かっているのです。私たち消防団員の思いは地域のために少しでも力になりたいというものであり、郷土愛そのものであると自負しております。

合併により消防団としての組織が大きくなり活動地域も広域化してきましたが、これからも地域住民のために太田市消防団は一致団結し、勇往邁進して参ります。

平成二十九年 度表彰

長年にわたり消防業務の御功績により叙勲及び表彰された方々を紹介いたします。

瑞宝単光章

元富岡市消防団	団長	山田 雅幸
元群馬町消防団	団長	松本 辰夫
元安中市消防団	団長	井上 豊
元草津町消防団	団長	大熊 利夫
元高崎市消防団	副団長	小野 香
元前橋市消防団	副団長	栗山 光男
元太田市消防団	副団長	河野 光則
元高崎市消防団	副団長	阿部潤一郎
元高崎市消防団	副団長	木村 一幸
元安中市消防団	副団長	萩原 久雄

藍綬褒章

群馬県消防組合消防団	副団長	服部 寛
高崎市消防団	副団長	堀井 敦夫
太田市消防団	分団長	中里 良昭
元前橋市消防団	副団長	林 政彦

群馬県功労者表彰

前橋市消防団	団長	石坂 賢
高崎市消防団	団長	田中 宏

群馬県総合表彰

南牧村消防団	団長	市川 富夫
高崎市消防団	副団長	松本 昌造
高崎市消防団	副団長	中里 幸夫
みどり市消防団	副団長	石川 重人
館林地区消防組合千代田消防団	副団長	齋藤 嘉一

消防協会定例表彰

桐生市消防団	副団長	内田 正一
伊勢崎市消防団	副団長	堀込 克美
元片品村消防団	副団長	狩野 孝夫
渋川市消防団	副団長	田子 英樹
神流町消防団	副団長	須藤 公裕
中之条町消防団	副団長	市川 勇

「表彰者総数 三三八九名 四団体」

☆無火災表彰

高崎市消防団吉井方面隊第四分団	四年
玉村町消防団第二分団	四年
玉村町消防団第三分団	四年
上野村消防団第二分団	一〇年

☆功労章

☆永年勤続功労章 一八六名(五四名)

☆精績賞 三三八名(五五名)

☆精勤賞 四八六名

五年勤続	五九三名
一〇年勤続	五〇四名
一五年勤続	三八一名
二〇年勤続	二八九名(三九名)
二五年勤続	一三五名(三八名)
三〇年勤続	六三名(一七名)
三五年勤続	三三名(一七名)
四〇年勤続	二八名(二四名)
四五年勤続	二名

☆永年勤続退職者表彰 二五一名(六六名)

☆三代伝承等 一〇名

()内は消防職員数

消防団紹介

消防団員募集

問い合わせ：各市町村役場へ



沼田市消防団



沼田市消防団は団員数七十七名（定数八十二名）、七個の分団で構成され、四一台の消防車両を所有し、消火活動・消防水利の点検・防災活動・行方不明者の捜索・歳末特別警戒・ポンプ操法訓練等、地域住民の安心安全を確保する重要な一角を担うべく、日夜活動しています。

昨年度は全焼二棟、半焼一棟、部分焼四棟という大規模な火災が発生し、正午から夜にかけて団員が消火活動を行い、また、九月には台風一三号に伴う前線豪雨の影響により市内で土砂災害、浸水害が発生した際も団員が復旧作業を行いました。ポンプ操法においても、県大会に出場した第一分団第四部が準優勝という成績を収めるなど、多方面で団員が活躍しています。

ます。

しかしながら、雇用形態の変化や少子高齢化の影響によって団員の確保が困難な地域が出てきており、現団員においても職場や家族の理解を得ることが難しくなってきています。

沼田市消防団では、消防団の活性化と地域へきめ細やかな消防団活動を普及する目的として平成三十年度に女性消防隊を立ち上げることにしました。広報活動・予防活動を行い、消防団をアピールするとともに、救命講習や各訓練を重ねていただき、新たな視点で地域の安心安全のために活動していただく予定です。

また、消防団の活性化、地域の活性化を目的として、消防団員を対象とした婚活イベントも行う事になりました。ラジオや市のホームページで広報を行った事により、地域の方に沼田市消防団を知ってもらい良いきっかけにもなっています。

「自分たちの地域は自分たちで守る」という精神のもと、先人たちが築いてきた伝統を守りながら、沼田市消防団がこれからも発展すべく決意を新たに日々精進していきたいと思います。



千代田町消防団

千代田町は水と緑あふれる豊かな町で、位置は「鶴舞う形」の群馬県の首の位置にあたります。町の南側には利根川が東西に流れており、人口は一一〇〇〇人の町です。このような地域を守る私たちは、館林地区消防組合千代田消防団は、団員一〇三名で構成されており、八個分団、八台のポンプ車両を保有しています。団員の平均年齢は三十五歳と若い組織ではありますが、団員が一致団結の精神で、愛する郷土を守り、災害を最小限で食い止めるべく、日々の消防活動に取り組んでいます。また、千代田の祭り「川せがき」の警戒、町民体育祭での消防団対抗リレー、千代田消防団防火パレード、歳末警戒等、地域のイベントや防火広報には積極的に参加し、地域住民との交流を深め顔が見える関係を築いています。年間の主な行事は機関員講習会、ポンプ操法競技大会、防災訓練、秋季点検、AED講習会、出初式等があります。今年度は千代田町主催の千代田町防災訓練が千代田中学校にて実施されました。二年前から住民参加体験型訓練を行い、各方面から十六団体、参加人数は五〇〇名を超えました。私たちは防災の大切さを再認識し、消防職員から災害対応訓練を学び今回の防災訓練に臨みました。五〇〇人を六グループに分け煙道体験、水防訓練、倒壊建物救出訓練、心肺蘇生法訓練、応急救護訓練、初期消火訓練の六

ブースを作り、各ブースの先頭に立つて参加者の指導にあたりました。小学生から高齢者まで幅広い年齢層が参加し、一生懸命に私たちの説明を聞いてくれ、訓練をしている姿がとても印象的でした。この住民参加体験型訓練において目標であった、町と地域住民と千代田消防団とのより深い絆の構築、一人一人の防災意識の向上という当初の目標が達成できたと信じています。今後、地震や風水害によって災害が発生した際には、町と住民と協力し災害に立ち向かい、今後も町民の生命、身体、財産、そして安全安心のため活動していきます。





【10月24日：実動訓練】



【10月24日：図上訓練】

『平成29年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練』

十月二十四日(火)、二十五日(水)群馬県南部(太田断層)を震源とする県内で最大震度六強を観測した地震を想定し『平成二十九年緊急消防援助隊関東ブロック

ク合同訓練』が実施されました。

この合同訓練は、大規模災害時における緊急消防援助隊の技術及び連携活動能力の向上を目的に、平成八年から全国を六ブロック(北海道東北、関東中部、近畿、中国、四国、九州)に分けて毎年一回ブロック毎に実施されております。

群馬県をはじめ、県内消防本部、関東ブロック内一都八県の緊急消防援助隊、陸上自衛隊、国土交通省、群馬県警察本部、群馬DMATなど多数の関係機関の参加により、本部運営訓練(図上訓練)及び実動訓練が実施されました。

この訓練において、大規模災害時における緊急消防援助隊の出動要請、部隊の参集及び配備など、県内の受援体制について検証することができ、また、実践的な訓練を通じて県内消防応援隊、緊急消防援助隊相互及び各関係機関との連携強化を図ることができました。

『太田市消防本部の取り組み 「特別査察隊設置」』

一般住宅を除く一定規模以上の建物には、消防法令により用途や規模などに応じて、消火器や誘導灯などの消防用設備等が設置されています。特に、不特定多数の方が利用する飲食店、物販売店、ホテルや病院、福祉施設のような自力避難の困難な方が利用する



民の安全確保に努めていきます。

建物などには、自動火災報知設備やスプリンクラー設備など、自動で発見や消火ができる設備が義務付けられています。こういった設備が設置されていない違反建物には、立入検査などにより設置指導をしています。設備が設置され建物の安全が確保されるまでには、どうしても一定の期間がかかってしまいます。

そこで太田市消防本部では、早期に建物の危険性に関する情報をホームページに公表し、建物利用者が安全性を判断できるための制度を平成三十年四月から実施いたします。さらに、この公表制度開始に向け、違反是正を促進するため、管内の各消防署から経験豊富な職員を集め、平成二十八年十月一日に消防本部予防課内に「特別査察隊」を設置しました。

建物所有者や経営者等にも消防法令に対する理解不足や金銭的な問題など様々な事情があり、是正には長い期間を要した建物もありましたが、粘り強く是正を促し査察指導を繰り返した結果、公表の対象となる違反は概ね解消されました。

今後とも定期的な立入検査などを通じて、建物関係者による適正な防火管理の実施や消防用設備等の維持管理を促し、火災などの発生を未然に防ぐことで、住民の安全確保に努めていきます。

『火災調査部会の活動 「群馬県消防長会」』



今年度、火災調査部会では群馬県内の各消防本部職員を対象に「火災調査実技研修会」、「火災調査特別講演会」、「火災調査実務研修会」の三事業を実施する予定です。

九月二十九日(金)には、消防研究センターから講師を招き、「糸魚川市大規模火災及び三芳町倉庫火災等調査事例」と題して火災調査特別講演会を実施し、大変好評をいただきました。

火災調査部会では調査員の育成方法、情報公開の対応などについて、各消防本部とのネットワークを確立し、火災調査技術向上のために、今後も活動をしていきたいと考えております。



第23回全国女性消防操法大会

「全国女性消防操法大会出場」について

高崎市消防団長 田中 宏

第二十三回全国女性消防操法大会(平成二十九年九月三十日)に群馬県代表として出場しました。大会を無事に終えることが出来たのも、群馬県消防協会、また、指導者である群馬県消防学校、高崎市、その他高崎市女性消防隊を支援いただいた皆様方、そして努力を積み重ねた出場隊員に心より感謝します。

高崎市消防団は、昭和二十二年に設置されました。以降、平成十八年から始まった市町村合併による編入と、平成二十五年の学生分団発足を経て、現在一〇方面隊五十八個分団にて活動を実施しています。平成二十九年九月一日時点の実員人数は、一、三六四人です。出場した高崎市女性消防隊は、学生分団員と女性団員の有志にて結成しました。

出場隊は、平成二十九年五月から大会へ向け高崎市等広域消防局にて毎週二日間の訓練を開始しました。操法は、隊員の気持ちとは裏腹に、思うように身体を動かすことが出来ず反復することばかりで焦る不安を取り除くことが出来ません。大会までの限られた期間、かつ学業・就労等を優先せざるを得ない状況の中、真摯な姿勢で訓練に取り組む隊員の姿に感服させられました。高崎市消防隊総合訓練(平成二十九年九月一〇日)での操法披露は、初の大舞台にも関わらず、訓練の

成果を見事に発揮し多くの感動を与えました。さらに、同総合訓練では、高崎市・群馬県消防協会・高崎市等広域支部より多大な激励をいただきました。改めて深く感謝を申し上げます。隊員は、大会同様の緊張感・群馬県代表という重責・心構えなど多くを得ることが出来、大会への多大な活力となりました。

大会は、雷雨と強風の中で開会。「怪我なく無事に操法を終了させたい。天候が良好となり、これまでの訓練成果を全て発揮させたい。」と、強く願いました。出場者・関係者すべてが同じ思いであったはず。その多くの思い

を汲み操法競技は、晴れ間に実施出来ました。隊員は、四苦八苦した訓練の集大成を発揮し、指導者・応援者と、一つになった六十秒間でした。消防技術向上と土気高揚、地域における消防活動の充実に十二分に寄与出来ました。私自身、これまでの消防団人生における最良の経験の一つが出来ました。

学生分団及び女性消防団員の活動は、まだまだ発展途上です。本大会への参加で得た貴重な経験を生かし、引き続き安心安全対策に対する啓発活動、その他災害の避難者支援や物資補給等の後方支援活動を確実に実施し、支援していただいた

皆様へ恩返しをしたいと考えます。

結びに、学生分団員や女性団員の入団促進活動は、消防団にとっての組織活性化、次世代の担い手の育成、技術の伝承など様々な効果があります。高崎市消防団として、引き続き団員確保に努め、地域防災力の充実強化の中核を継続して担えるよう、各分団はもとより、地域住民の皆様、地元企業や各種団体など、さらには各市町村消防防災組織の総力を団結できるよう尽力して参ります。



平成29年度高崎市消防隊総合訓練 高崎市長からの激励時



「地域との連携」を 目的とした 災害医療訓練の取り組み

吾妻広域消防本部



吾妻地域の災害拠点病院である原町赤十字病院に於いて、日本赤十字社群馬県支部主催による地域医療機関、消防、警察、行政、看護学生などが参加して「災害救護訓練」を行っています。

この訓練では「地域との連携」を目的として、吾妻地域の関係機関が相互の連携を図り、さらに県内各地から参集する防災関係機関とも連携を図ります。

訓練の想定は、吾妻郡東部地域を震源とする大規模な地震が発生、それに伴い家屋倒壊や交通事故が多発し、付近の国道では大型観光バスを含む多事故により、多数の傷病者が発生したというものです。消防、警察、赤十字救護班、群馬DMAT、接骨師奉仕団等が救助救出と医療救護を実施し、地元消防団は、傷病者の搬送を担います。無線赤十字奉仕団、赤十字飛行隊群馬支隊、赤十字飛行隊支援奉仕団が上空と地上から被害状況を伝達します。また、地元の赤十字奉仕団や防災ボランティアは、炊き出し等を行うなど、地域に根ざした連携を多方面において行います。

事前に合同の打合せを行い、また、それぞれの関係機関で事前の勉強会を重ねて臨み、災害に対する知識の習得や災害発生時の対応を深く考えるきっかけとなります。訓練終了後には、各関係機関の参加者による反省点や今後の課題等を検討します。参加者からは、「連携がうまくいった」「情報が不足して円滑な活動ができなかった」「不安を感じている傷病者に声掛けができなかった。」などの

様々な意見が寄せられました。

局地災害は、いつ、どこで発生するか分かりません。災害現場では、「被害状況の情報」「傷病者の情報」「搬送手段の情報」「搬送先医療機関の情報」が不可欠であります。この情報の流れと各関係機関がどのように連携、協力したら良いのか迅速に判断し対応することが必要となります。

吾妻地域は、山間部に位置し、医療も都市部に比べて充実しているとは言えない地域です。災害現場での混乱を少なくし、円滑な活動を行う事を目的に、このような災害医療訓練を継続して行い、関係機関との「顔の見える関係」を築くことによる連携強化の取り組みを今後も継続的に実施していきたいと考えています。





女性防火クラブ



「女性パワーと地域防災力を語る集い」及び「第十八回応急手当普及啓発推進会議」並びに「平成二十九年度関東地区女性（婦人）防火クラブ連絡協議会幹部地域研修会」について

群馬県女性防火クラブ連絡協議会事務局

平成二十九年十月五日から六日にかけて、東京都において、「女性パワーと地域防災力を語る集い」及び「第十八回応急手当普及啓発推進会議」並びに、「平成二十九年度関東地区女性（婦人）防火クラブ連絡協議会幹部地域研修会」が開催されました。群馬県女性防火クラブ連絡協議会からは、小俣会長、千本木副会長、額額監事の三名が出席しました。

「女性パワーと地域防災力を語る集い」は、全国の女性防火クラブの代表が一堂に会し、新たな決意のもと、日頃の活動の活性化と組織強化の一層の推進を語り合い、防火防災思想の普及を図ることを目的として開催されました。本大会は、奥野信亮総務副大臣の挨拶に始まり、宮崎緑千葉商科大学国際教養学部長の講話、栃木県と高知県の代表者による活動状況についての発表がありました。また、「女性パワーがいきるこれからの防火防災」と題して行われたシンポジウムでは、各地区の代表者からの積極的な発言もあり、充実した討論が実施され、盛況のうちに、初日の日程が終了となりました。

二日目の午前中には、「第十八回応急手当普及啓発推進会議」が開催されました。本会

議では、和歌山県と長崎県の代表者による救急講習会実施状況についての発表、消防庁救急企画室の小久江賢一氏による「救急業務の現状と課題」と題した講演などがありました。

午後からは、「平成二十九年度関東地区女性（婦人）防火クラブ連絡協議会幹部地域研修会」が開催されました。各地区の代表者による活動報告が行われた後、東京消防庁技術安全所の視察研修を実施しました。同所は、災害現場における消防隊員の安全確保と効果的な活動を行うための科学的見地に立った安全検証と技術改良の推進などを目的に設立された研究機関であり、そこでの視察研修から日常生活の中での防火意識の重要性を再認識することができました。中でも、天ぷら油の燃焼実験では、水をかけることにより爆発的に炎が広がる現象を目の当たりにした参加者から、驚きの声が上がっていました。

二日間を通し、全国各地の代表者の方々と情報交換を行うなかで、多くのことを学ぶとともに、各都県および地域間の一層の充実・強化、連携を図ることができました。今回得た知識や情報を各地区の活動に還元していきたいと存じます。

住宅用火災警報器の設置率向上を目指して

館林市女性防火クラブ連合会 会長 小林 八重子

七月十五日（土）毎年恒例の館林まつりが開催されました。パレードは、午後三時三十分から開始され、気温三十二度を超える真夏日の中、参加団体十七団体中、先頭は消防音楽隊、そして二番目に館林市女性防火クラブ連合会の順でパレードを行いました。

当連合会の参加者は、百八十五名、また二十九年度から館林市女性防火クラブ連合会へと名称変更もあり、新たに横断幕を作製し、本部役員は法被を着用し、横断幕を持ち、クラブ員はミニ纏を持ち、住宅用火災警報器設置向上をアピールしながら約一キロ、ウエットティッシュ・チラシ・パンフレットを配りパレードをしました。そして、館林まつり実行委員会本部席前では三分間の団体紹介の時間が設定され、代表として会長が当連合会の目的である「自分の家から火事を出さない」また、住宅用火災警報器の必要性をアピールしました。四十分程のパレードですが、毎年参加している館林まつりパレードにおいて、少しずつではありますが、市民の皆さんに住宅用火災警報器設置の必要性が意識付けられていると思います。

その他の事業としては、毎年十一月の第三日曜日に開催されます、館林市産業祭に私達、連合会は各ク

ブから品物を出してもらい、チャリティーバザーを出店しています。その時にも各参加団体、来場者に館林まつり同様、チラシ・パンフレットの配布を意識向上を促しています。またチャリティーバザーの売上金を館林市及び社会福祉協議会に寄付をしています。最後に、私達が住む館林市が一件でも火災が減り、市民の方が安心して暮らせるまちを目指して、クラブ員相互の連携を図り関係機関と協力し、活動に邁進していく所存です。



群馬県殉職消防職団員慰霊祭を挙行



平成二十九年十月十九日(木)群馬県消防学校の慰霊碑前において、群馬県殉職消防職団員慰霊祭を挙行しました。御遺族代表の方々をはじめご来賓の皆様、消防協会役員・消防関係者など一五〇名ご参加を頂き盛大に挙行されました。

群馬県消防協会会長である大澤知事は、「この慰霊碑に祭られた方々は、いずれも、消防職団員として職務を遂行する中、身を挺して危険に立ち向かわれ、尊くもその職に殉ぜられた方々です。我々は、殉職された方々の強い正義感と深い郷土愛に崇高な消防精神を規範とし、これまで以上に、災害に強く、安全で安心して暮らせる地域作りに取り組んでまいりますことを、ここにお誓い申し上げます。」と式辞を述べ、消防関係者で殉職者の御霊に対して敬意を表するとともに、安全・安心への誓いを新たにいたしました。

「ぐんま消防団応援の店」登録店舗を募集しています

問い合わせ先 県庁消防保安課

TEL 027-897-2686
FAX 027-221-0158

ご協力をお願いいたします。
事業内容や登録方法について詳しくは、県ホームページをご覧ください。お問い合わせください。



登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

大盛り無料、店内ポイント二倍など、各店舗で任意に設定いただいております。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。

登録店舗は随時募集していますので、登録にご協力をお願いいたします。



県内の消防の現況 (平成29年10月1日現在)

消防団員数	11,727人	(前年比 53人減)
男性	11,596人	(前年比 87人減)
女性	131人	(前年比 34人増)
消防職員数	2,536人	(前年比 増減無し)

消防団員募集

問い合わせ：各市町村役場へ



平成29年度全国統一防火標語

「火の用心 ことばを形に 習慣に」

発行所 公益財団法人 群馬県消防協会
前橋市大手町一丁目1番1号
群馬県総務部消防保安課内
TEL 027-220-1338
URL <http://www.gunma-syoubou.jp/>

編集発行人 公益財団法人 群馬県消防協会
常任理事 小見 洋

印刷所 朝日印刷工業株式会社

編集後記

平成28年4月の熊本地震では、震度7を2度も観測し、多くの家屋が倒壊するなど甚大な被害がもたらされました。

また平成29年9月の九州北部豪雨、台風等による一連の災害により、東北から九州までの広範囲にわたって人的被害や住家被害等が発生し、住民の生命、財産に大きな影響を与える災害が発生しております。近年は台風や豪雨による災害が毎年のように発生するほか、南海トラフ地震や首都直下地震といった大規模災害の発生も危惧されております。

消防団は、消火、救助、避難誘導等様々な活動に従事することになり、消防団が地域防災を構築する上でその重要性を増しています。